

船舶事故調査報告書

平成24年3月15日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵男（部会長）
委員 庄 司 邦 昭
委員 石 川 敏 行
委員 根 本 美 奈

事故種類	衝突（消波ブロック）
発生日時	平成22年8月22日（日） 09時50分ごろ
発生場所	大阪府阪南市貝掛の海岸 阪南市所在の下荘港西防波堤灯台から真方位072° 1,600m付近 （概位 北緯34° 21.0′ 東経135° 13.5′）
事故調査の経過	平成23年5月27日、本事故の調査を担当する主管調査官（神戸事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	プレジャーモーターボート ^{ミ ュ キ ャ ッ} MIYUKI II、5トン未満 253-15326大阪、個人所有 7.47m (Lr) × 2.88m × 1.62m、FRP ディーゼル機関、169kW、平成5年11月
乗組員等に関する情報	船長 男性 37歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成15年8月15日 免許証交付日 平成19年12月12日 （平成25年8月14日まで有効）
死傷者等	負傷 1人（船長）
損傷	船首部を破損、船底部に擦過傷
事故の経過	本船は、船長及び同乗者4人が乗船し、和歌山県和歌山市友ヶ島沖で釣りを行ったのち、大阪府貝塚市所在のマリーナに戻ることにした。 船長は、時速約31～40kmの対地速力により、操縦席に腰を掛けて手動操舵に当たるうち、眠気を感じるようになり、大阪府岬町淡輪港沖を東北東進中、居眠りに陥った。 本船は、徐々に右転しながら航行を続け、平成22年8月22日09時50分ごろ貝掛の海岸に設置された消波ブロックに衝突した。 船長は、顔面に裂傷を負い、海上保安庁に携帯電話で事故の発生を通報した。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 西、風力 2、視界 良好 海象：海上 平穏、潮流 約0.2～約0.7ノットの東北東流
その他の事項	船長は、前日の土曜日に仕事があり、本事故当日03時ごろ自宅を出て早朝から釣りをしていたので、疲れがあった。 船長は、眠気を感じるようになったが、操縦中に居眠りするとは思わなかった。

分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	あり なし なし 本船は、淡輪港沖を東北東進中、船長が居眠りに陥ったことから、右転しながら貝掛の海岸に向けて航行し、同海岸に設置された消波ブロックに衝突したものと考えられる。 船長は、疲労が蓄積していたこと、操縦席に腰を掛けて居眠りに陥りやすい姿勢を続けていたことから、居眠りに陥った可能性があると考えられる。
原因	本事故は、本船が、淡輪港沖を東北東進中、船長が居眠りに陥ったため、貝掛の海岸に向けて航行し、同海岸に設置された消波ブロックに衝突したことにより発生したものと考えられる。	
参考	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 ・ 操縦中に眠気を感じた場合は、操縦席から立って身体を動かしたり、ガムをかむなどして眠気を払うこと。 ・ 眠気を払うことができない場合は、操縦が可能な者と交代すること。 ・ 疲労の蓄積や睡眠不足にならないよう、適度の休息や十分な睡眠をとること。	